

200727015A

厚生労働科学研究費補助金

エイズ対策研究事業

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への
支援・予防対策の開発に関する学際的研究

平成 19 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 東 優子

平成 20 年 (2008) 年 3 月

目 次

I	総括研究報告		
	日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究	・・・・・・・・・・東 優子	1
II	分担研究報告		
	A. 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究	・・・・・・・・・・徐 淑子他	6
	B. 性娯楽施設・産業従業者（SW）の保健行動の阻害要因に関する研究		
	B-1 SW への半構造化面接のための文献研究	・・・・・・・・・・澁谷 知美	23
	B-2 SW10名への半構造化面接調査（中間報告）	・・・・・・・・・・東 優子他	25
	C. 青年期女性における金銭が介在する性行動とセクシュアル・ヘルスの問題 —携帯電話の web アンケートを用いた調査から—	・・・・・・・・・・野坂 祐子他	28
	D. 性娯楽施設・産業に係る人々のセクシュアル・ヘルスを促進する多様な「しかけ」の検討・開発と実践		
	D-1 セックス・ワーカーへのインターネットによるHIV予防啓発に関する研究 —セクシュアル・ヘルス/ライツ啓発の「場」としてのWEB版コミュニティの有効性と課題—	・・・・・・・・・・中村 美亜	39
	D-2 MIXイベント「セックスワーカーのいるまち」成果報告	・・・・・・・・・・生島 嗣他	54
III	資料		65
	HIV 感染への脆弱性とセクシュアル・ヘルス/ライツ	・・・・・・・・・・東 優子	66
	青少年の性行動と STD/STIs 予防行動について		
	——セクシュアル・ヘルスの観点から	・・・・・・・・・・野坂 祐子・内海 千種	73
	性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究・調査票		79

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究

課題番号：H18-エイズ-一般-014

主任研究者：東 優子 (大阪府立大学人間社会学部 准教授)

分担研究者：徐淑子 (新潟県立看護大学 講師)、野坂 祐子 (大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター 講師)、

中村美亜 (東京藝術大学 助手)、生島嗣 (ぶれいす東京 運営委員長)

1. 研究目的

「性娯楽施設・産業に係る人々」の well-being、およびわが国における HIV/AIDS 対策事業に貢献することを目的に、4つの柱ごとに立てられた本年度の目的を以下に示す。

- A.性娯楽施設・産業を利用する男性顧客の HIV/STDs にたいする感染脆弱性および予防対策ニーズを行動・意識面から評価し、対象者層に必要な予防啓発活動のありようを同定するための基礎情報を得る。
- B.性娯楽施設・産業従業者 (SW) の保健行動の阻害要因を把握する。
- C.性風俗産業の多様化・「素人/玄人のボーダレス化現象」を踏まえ、金銭が介在する性行動をとりながら、産業形態に従事することのない「一般女性」の性行動を把握する。
- D.アクセスが困難な SW のセクシュアル・ヘルス/ライツ啓発の「場」としての web 版コミュニティの有効性と課題を把握する。

2. 研究方法

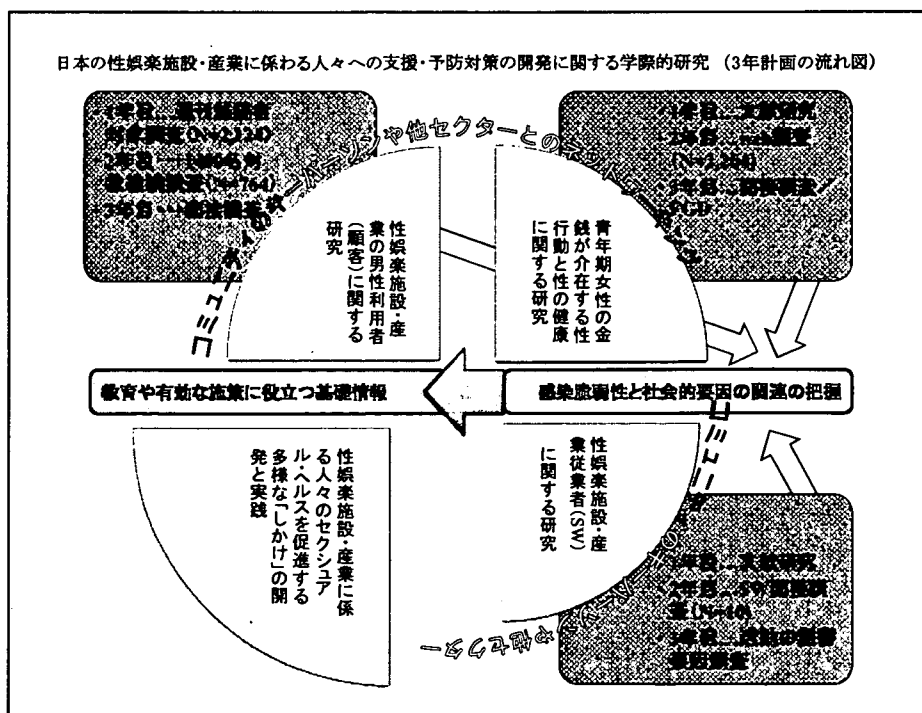
A.の調査対象者は、男性週刊誌を利用した初年度の募集法調査に応じた人で、継続調査への協力を許諾した1,400人である。郵送調査法による自記式質問紙(192項目)に回答した人の中から希望者に商品券1,000円分が送付された(集票期間:2007年12月11日~翌年1月31日)。期日までに有効票785を回収した(回収率56.1%)。対象者は昨年度調査によって得られた名簿を用いたため、性娯楽サービス利用経験のある40-50代の会社員(企業被雇用者)をよく代表するサンプルが得られた。B.では、性風俗産業に係わる10名を対象として、感染脆弱性および健康教育ニーズを

評価するための半構造化面接(約1時間)を実施した。C.では、携帯電話アンケート会社に登録している18~29歳の女性2,600名にURLを配信し、その87.1%に当たる2,264名(平均年齢22.7±2.78歳)から質問(21項目)への回答が得られた(集票期間:2007年12月14~25日)。D.では主に、国内のwebサイトのコンテンツ分類と内容分析を行った。

(倫理面への配慮)

調査については、大阪府立大学人間社会学部の研究倫理委員会の承認を受けた。質問紙調査やインタビューでは、つねにプライバシーについて配慮し、研究の目的、データの保管や利用について明確にし、自発的な協力を承諾した対象にのみ参加してもらった。成果発表では、研究協力者が同定されかねないような情報は改変したり、非公表扱いとする。回答・インタビュー記録は研究目的以外に使用しない。研究に係る全員について、補助作業において知りえた情報を口外しないよう指導を徹底している。特に

日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究 (3年計画の流れ図)



C.については、アンケートで質問した HIV・STD に関する知識について回答者が調査後に正答を確認できるよう、閲覧用の web サイトを設定し、教育・予防啓発の一助とした。

3. 研究結果

A.の回答者の年齢は、25 歳以上 75 歳までの間で、50 パーセントは「46-50 歳」となった。職業では会社員・公務員などの被雇用者が計 57.9%、学歴では大卒 43.1%、高卒 35.2%などであった。また、53.9%が有配偶であった。過去 1 年間に女性とセックスをしたことがあったのは全体の 83.2% (653 名) であり、1 年間のパートナー数は配偶者を含め 3.99 ± 3.14 人であった。このうち性風俗を利用したことのある人は 59.7% (平均 5.14 ± 10.27 回) で、69.2%が過去 3 か月以内に性風俗を利用していた。直近の利用を業態別に集計したところ、ソープランド 30.3%、店舗型ファッションヘルス 21.8%、派遣型ファッションヘルス・ヘリヘル 16.7%などの順で多く、「非本番系」でもかなりの割合で「本番サービス」が行われていることが明らかになった。またこの直近の性風俗利用でコンドームを利用したと答えた人は、ソープランド 80.5%、店舗型ファッションヘルス 44.7%、派遣型ファッションヘルス・ヘリヘル 61.5%などであり、フェラチオでのコンドーム使用はこの業態別で 13.8%-25.0%、膣挿入では 21.1%-79.7%であった。風俗利用者の「ナマ志向」(コンドームを使用しないセックスを愛好すること)についての結果は、「ナマのサービスがあるかどうかを確認する」など積極的に「ナマ志向」を表明していたのは全体の4分の1以下であるが、「女性がナマでもいいよと思ったら使用しない」など潜在的な「ナマ志向」を自覚している人となると、半数近くとなる傾向がうかがえた。また、8-9 割の回答者が、接客女性や店の方針としてコンドーム使用が求められるならそれに応じるという態度を肯定していた。しかし、顧客の側も含めてコンドーム使用を積極的に推進する意見項目に賛成する割合はそれより若干低下する傾向にあった。

B.の面接対象 10 名の内訳は〈性別*性的指向〉女性異性愛者 4 名、男性同性愛者 3 名、男性異性愛者 2 名、女性両性愛者 1 名、(業種)「連れ出しスナック」2 名、「マンション・ヘルス (ウリ専)」2 名、「アダルト・ビデオ」2 名、「ソープ」1 名、「出張ヘルス」1 名、「立ちんぼ」1 名、「個人売春」1 名で、現在分析中。

C. でこれまでに性娯楽産業等で勤務した経験は、「クラブやバーのコンパニオン」19.2%、「デリヘル」6.8%などを含め、575 名 (全体の 25%) であった。また、それと一部回答者が重複するが、「性娯楽施設以外の状況での金銭の授受を伴う性行動の経験」に注目すると、「セックス」が 11.8%、「セックス以外の性行為」が 14.2%で、321 名 (全体の 14.2%) が、何らかの性行為をして異性から金銭を受け取った経験を有していた。「性娯楽施設以外の

状況での金銭の授受を伴う性行動の経験」に注目すると、「事前にコンドームを使うことを確認した」のは 48.6%であるが、「自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」のは 23.1%で、その他の理由を合わせて 77.3%が「性的健康のリスク経験」を報告している。しかし、「金銭の授受を伴わない」場合も 83.7%が「性的健康のリスク経験」を報告している。全体の 68.8%が「妊娠したかもしれないと心配した」、30.3%が「自分ではコンドームを使いたかったのに、使わずにセックスをした」経験がある。また、HIV や STD に関する知識は、一般人を対象とした先行研究と比べて正答率が高かった。また、自由記述では STD やセックスについて具体的な情報を求める声が多く寄せられた。

D.では、国内の「SW*HIV」に言及された web120 ページの内、海外の HIV 事情報告や学会・研究会報告など、研究者や NGO の活動家対象が 38 ページ (32%)、男性顧客側どうしの情報交換が 32 ページ (27%) で、HIV/STD 予防啓発を主たる目的にしているのは 28 ページ (23%) であった。また、女性利用者をターゲットにしていた 19 ページ (16%) =9 サイトについて 2 つの分析軸を用いて評価したところ、(1)「SW フレンドリネス」(誰が発信しているか、労働条件改善についてのアドバイス、エンパワメント)については、雇用者目線によって記述されたものが多く、(2)「個人スキル」(意志決定、コミュニケーション、交渉術)についてはほとんど言及がないことが示唆された。

4. 考察

A.の「男性顧客調査」については、昨年度調査から指摘された課題につき、①サブポピュレーションごとの健康教育ニーズ (提供されているサービス内容およびコンドーム使用の状況から、非本番系とされている業態でもコンドーム使用推進の対象に入る。業態に関係なくフェラチオ (オーラル・セックス) の際の健康リスクにとりくむ必要がある。)、②健康教育レディネスの評価 (性風俗利用と性の健康についての態度の結果から、風俗ユーザーのマジョリティはコンドーム使用の「ルール化」「規範化」戦略に反応しやすいかのではないかと)、③派遣型ユーザーの実態把握 (派遣型ヘルスは、本番系業態として位置づける。派遣型・非本番系・オーラルセックスのいずれかが関与する場合には、特別な配慮を要する)、④ヘビーユーザー/ハイリスクユーザーの同定 (コンドームを使用しないセックスを自覚的に求める「顕在的」ナマ派は確かに存在しており、その傾向と対策が必要である。一方、「ポテンシャル」ナマ派 (必要であればコンドームを使用するが、もし安全ならば・機会があればコンドームを使わずにセックスしたいと考えている人) を「顕在的」ナマ派に転化させないという介入の戦略点が存在する)、以上の 4 点が指摘される。

Bの「SW調査」についてはデータ分析が未了のため、考察は差し控えたい。

またCの「女性調査」では性の保健行動を実践する上で関係性や状況による違いが認められた。これにより、「ハイリスク予備軍」（ハイリスク／ヘビーユーザーでない男性顧客とボーダレス女性、「生サービス」をウリにしていないSW）には「風俗ではいまやコンドームを使うものだ」という「状況固め」（＝社会規範づくり）をすることが重要であり、「ナマ本番志向」のあるハイリスク／ヘビーユーザーについては、その内容をより明らかにすることが、有効な介入・予防啓発に繋がることが示唆された。

また女性調査とDの結果と合わせて考えた場合、当事者の支援・予防啓発にはインターネットや携帯サイト、あるいはSNSなどの有効利用が検討されるべきであることはもちろんのこと、「素人／玄人のボーダレス化」を踏まえた（SW向けに特化するのではなく）「一般女性向け」で、かつ「個人スキル」（意志決定、コミュニケーション、交渉術）や「SWフレンドリネス」（誰が発信しているか、労働条件改善についてのアドバイス、エンパワメント）の内容が盛り込まれることが、広範なターゲットにアプローチする上で有効であると思われる。

5. 自己評価

1) 達成度について

Aの「男性調査」では、昨年度調査の内容をより詳細にした質問紙調査により、昨年度調査で見出された新たな探索課題を含め、性風俗利用者の態度・行動特性がいつそう明確になった。

Bの「女性調査」では、「性娯楽施設・産業と同じく金銭が介在する性行動をとりながら、産業形態に従事することなく、個人的に性行為によって金銭を得る状況に着目し、こうした状況下における女性の性行動の詳細とHIVやSTDの感染リスクを含めたセクシュアルヘルス（性の健康）の問題を検討すること」を達成するのに十分な資料が得られたといえる。とくに、近年のモバイルツールの流行をふまえて、携帯電話のwebを通じたアンケート手法を用いたことで、本研究のテーマに当該する対象群へのアプローチが可能になったと考える。

Cの「SW面接調査」については、文献研究で示唆された①語られたことを、別の立場にある人の視点や同一人物の別の時の発言などから、多角的に検証すること、②参与観察や面接調査以外にも印刷物やインターネットなど多様なリソースからの情報集取を行い、調査結果との比較を行うこと、③データはいったん当事者にフィードバックし、その見解を反映した上で最終的な結果とすること、④相対的に立場の強い調査者はインフォーマントを非力な存在として表象しがちだということに自覚的なこと、

に注意しつつ、分析・考察を行っていく。しかし、基礎データの整備や調査協力者名簿が得られたことにより、今後の発展的調査研究の基盤が確立された。また、コミュニティのキーパーソンとのネットワークの深化は、研究班の財産であり、今後の予防啓発介入の成果が期待されると言えよう。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

Aの「男性顧客」については、調査の規模、経年観察が可能な調査デザイン、情報量などの点から、先行研究と見比べてもじゅうぶんな学術水準に到達していると思われる。Bの「女性調査」に関しては、「性娯楽施設に勤務する以外の状況における金銭が介在する性行為」に関する大規模な調査は、わが国では初めて行われたものであり、回答者のうち約7分の一の女性が該当経験を有するという結果は、今後のHIVおよびSTD感染予防の教育や有効な施策を検討するうえで役立つ情報となりうる。CとDに関しては、アクセスが困難なSW当事者について、調査結果はもとより、調査プロセスにおいてコミュニティとのネットワークの深化がみられたことは大きな成果のひとつであり、有効な支援・予防啓発が期待される。

3) 今後の展望について

特に「男性顧客」については、これまでの調査から得られた情報をもとに、予防啓発活動のガイドライン策定を行い、その具体的成果物として、保健従事者・政策立案者向けIECガイドライン、性娯楽産業経営者・業務従事者向け読本を作成する。本研究班の他の研究課題と連動し、「しかけ」（具体的な予防啓発プログラム）に対し、成果物にもとづく提案を行う。基礎データの整備や調査協力者名簿が得られたこと、コミュニティとのネットワークの深化を通じて、今後の発展的研究および、効果的な支援・予防啓発活動の展開に繋げていきたい。

6. 結論

本研究は、従来、「男性顧客」「SW」「非SW」とひとくくりにされてきた集団の特性を明らかにすることにより、介入やニーズ把握の糸口をつかむことを可能とした。また、コミュニティとのネットワークにより、調査段階および結果の解釈において重要となる多角的視点を踏まえた、より有効な予防啓発の展開が期待される。

7. 知的所有権の出願・取得状況（予定を含む）

特になし。

研究発表実績

主任研究者

東 優子

和文

- 1) 東優子. HIV感染への脆弱性とセクシュアル・ヘルス/ライツ. 社会問題研究. 57(2)、 pp.27-39.
- 2) 東優子. 性的少数者とセクシュアル・ヘルス/ライツ―「健康」概念を取り込む戦略の行方―. ムーブ叢書6『ジェンダー白書』明石書店. 2008年3月
- 3) 東優子. セクシュアル・ヘルスの時代がやってきた. 季刊セクシュアリティ. No.30: 156-163、 2007.
- 4) 東優子. 人間の性とは何か〜セクシュアリティ概論〜. 日本性教育協会編『性教育実践のための指導者講習会テキスト』 日本性教育協会 2007年6月

口頭発表

海外

- 1) Higashi, Y Suh, S, Ikegami, C, Nosaka, S, Katsumata, S: Two thousand (2000) Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry. Presented at 18th World Congress of the WAS/1st World Congress for Sexual Health (April 15-19, 2007, Sydney, Australia)

国内

- 1) 東優子. 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究. 平成18年度エイズ対策研究事業研究成果発表会 [厚生労働科学研究費 (エイズ対策研究推進事業) 研究成果等普及啓発事業] Bridging the Gap : 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々の支援・予防対策の開発に関する学際的研究」の成果をコミュニティに還元していくために. 於・クラブD'C 平成20年1月27日 (日)
- 2) 徐淑子, 東優子, 野坂祐子. 日本における成人異性愛男性の性娯楽施設・産業の利用とコンドーム使用. 第21回日本エイズ学会学術集会 広島 2007年11月29日.

分担研究者

生島 嗣

和文

- 1) 野坂祐子, 生島嗣. HIV陽性者のストレスとストレスマネジメント・ワーク・ピア・グループを活用した支援的介入の実践から. 聖マリアンナ医学研究誌. 7 : 137-144、 2007.

口頭発表

国内

- 1) 生島嗣. 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究. 平成18年度エイズ対策研究事業研究成果発表会 [厚生労働科学研究費 (エイズ対策研究推進事業) 研究成果等普及啓発事業] セックスワークを仕事とする私が日常的に感じたり考えたりする HIV/AIDS. 於・コミュニティセンターakta 平成20年2月2日 (日)

徐 淑子

和文

- 1) 徐淑子 (共著). LET'S CONDOMing . 特定非営利活動法人ふれいす東京. 2007.
- 2) 徐淑子. 薬物・アルコール乱用防止教育とエイズ教育の統合モデルについての基礎的研究. 新潟県立看護大学学長特別研究費 平成18年度 研究報告書.

口頭発表

海外

- 1) Higashi, Y Suh, S, Ikegami, C, Nosaka, S, Katsumata, S: Two thousand (2000) Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry. Presented at 18th World Congress of the WAS/1st World Congress for Sexual Health (April 15-19, 2007, Sydney, Australia)

国内

- 1) 徐淑子. 性感染症の予防的保健行動と性の関係性、シンポジウム2、第13回日本行動医学会、2007年3月18日埼玉県立大学.
- 2) Suh, Sookja, Developing a Peer-Featured Drama as a Material for Sexual Health Education, The 3rd Asian Conference on Sexuality Education, (Augst19 2007, Rikkyo University, Tokyo)
- 3) 徐淑子. 日本の性娯楽施設・産業に係わる人々への支援・予防対策の開発に関する学際的研究、平成18年度エイズ対策研究事業研究成果発表会 [厚生労働科学研究費 (エイズ対策研究推進事業) 研究成果等普及啓発事業] 予防啓発のための「しかけ」の開発-当事者と地域資源の連携の視点から-於・ねぎし内科診療所 平成19年11月22日(木)
- 2) 徐淑子、東優子、野坂祐子. 日本における成人異性愛男性の性娯楽施設・産業の利用とコンドーム使用. 第21回日本エイズ学会学術集会 広島 2007年11月29日.

野坂 祐子

和文

- 1) 野坂祐子、内海千種. 青少年の性行動とSTD/STI 予防行動について—セクシュアル・ヘルスの観点から—. 大阪教育大学紀要 第IV部門 教育科学 第56巻 第2号、(印刷中) 2008.
- 2) 野坂祐子. フィールドワークにおけるジェンダー—ジェンダーをともに生きる<当事者>として—. 宮内洋、今尾真弓編. あなたは当事者ではない—<当事者>をめぐる質的心理学研究—. 134-144. 北大路書房: 京都. 2007.
- 3) 野坂祐子、生島嗣. HIV 陽性者のストレスとストレスマネジメント・ワーク・ピア・グループを活用した支援的介入の実践から. 聖マリアンナ医学研究誌. 7: 137-144, 2007.
- 4) 野坂祐子 (共著). LET'S CONDOMing . 特定非営利活動法人ふれいす東京. 2007.

口頭発表

海外

- 1) Higashi, Y Suh, S, Ikegami, C, Nosaka, S, Katsumata, S: Two thousand (2000) Japanese men and their utilization of sex entertainment establishment/industry. Presented at 18th World Congress of the WAS/1st World Congress for Sexual Health (April 15-19, 2007, Sydney, Australia)
- 2) Nosaka, S., Yoshida, H.(2006). Sexual Victimization. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p.204.
- 3) Yoshida, H., Konishi, T., Nosaka S.(2006). Mental Illness in Intimate Partner Violence. *Japanese Childhood. International Society for Traumatic Stress Studies 22nd Annual Meeting Final program and Proceeding*, p.166.

国内

- 1) 徐淑子、東優子、野坂祐子. 日本における成人異性愛男性の性娯楽施設・産業の利用とコンドーム使用. 第21回日本エイズ学会学術集会 広島 2007年11月29日.

中村 美亜

和文

- 1) 中村美亜. セックスワーク. キリスト教平和学事典. 関西学院大学キリスト教と文化研究センター編. (2008年刊行予定)
- 2) 中村美亜. 性を楽しく語ろう—性の健康学(連載). 公衆衛生. 医学書院. 2007年9月号—現在
- 3) 中村美亜. それゆけセクソロジー(連載). 現代性教育研究月報. 財団法人日本性教育協会. 2007年—現在

A. 性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究

性娯楽施設・産業を利用する男性に関する研究

徐 淑子 (新潟県立大学 講師) 東 優子 (大阪府立大学 准教授)

野坂 祐子 (大阪教育大学 講師) 内海 千種 (エイズ予防財団リサーチレジデント)

研究協力者

池上 千寿子 (ぶれいす東京 代表) 鍵田いずみ (MASH 大阪) 要友紀子 (SWASH)

渋井哲也 (ライター) 仲尾唯治 (山梨学院大学 教授) 松沢呉一 (ライター) 張由紀夫 (Rainbow Ring)

研究要旨

日本における成人異性愛男性の性娯楽産業利用状況および HIV/STDs 予防にかんする意識・行動を調査し、HIV/STDs にたいする感染脆弱性および予防対策ニーズを検討することを目的として、郵送法による自記式質問紙調査を実施した。対象は、性娯楽産業の利用経験のある男性とした。初年度調査参加者名簿登録者 1,400 名に質問紙を送付し有効票 785 票を回収した。調査期間は、2007 年 12 月・2008 年 1 月の約 6 週間とした。調査結果より、1) 一般的な風俗ユーザーは、コンドーム使用の「ルール化」「規範化」の戦略に反応しやすい、2) 派遣型、非本番、オーラル・セックス=この3つにかかわる介入・対策は、特別な注意が必要、3) 「ポテンシャル」ナマ派を「顕在的」ナマ派に転化させない介入の必要性などのことが示唆された。

1. 研究目的

本研究は、性娯楽産業の男性利用者（顧客）の感染脆弱性および健康教育ニーズを行動・意識面から評価し、対象者層に必要な予防啓発活動の内容を同定するための基礎情報を得ることを目的とする。

前年度は、男性顧客層の下位集団の抽出を試み、「若年者中心の店舗型ヘルス利用者」「中年層以降のソープランド利用者」「地方在住のバー・スナック連れ出し利用者」「コンドーム使用が低率なピンクサロン利用者」の4つを、重要な下位集団カテゴリーとして暫定的に設定した。

また、回答者全体では、性風俗サービス利用にあたって、コンドーム使用をしない陰性交サービス（「生の本番」）をとくに重視する傾向はみられなかったが、「本番」サービスを重視する顧客は同時に、「生」サービスを重視する傾向が見出された。

以上を受け、本年度は、引き続き男性顧客層を対象に、行動・意識についてのより詳細な調査を実施し、次年度に予定されている、性娯楽産業にかかわる人々への HIV 予防を目的とした「しかけ」の策定に向け、顧客層の健康情報ニーズおよび介入方法にかんする基本ニーズを整理・把握した。

2. 研究方法

1) 方法

自記式質問紙を用いた郵送調査法を実施した。調査対象者は、前年度調査（男性週刊誌を利用した募集法調査）に応じた人の中から、継続調査（本年度調査）の質問紙送

付を承諾した人とした。昨年度調査終了時に 1,400 名分の名簿を整理し、これを今回の調査で使用した。

質問紙を返送した人の中から希望者に 500 円分の商品券をインセンティブとして送付することとした。

配布・集票期間は、2007 年 12 月 11 日から 2008 年 1 月 31 日と定めた。期日までに有効票 785 票を回収した（回収率 56.1%）

2) 対象

昨年度は、30-40 代男性を主たる読者とする雑誌を用いて同様の調査を行った。本年度は、この昨年度調査によって得られた名簿を用いたため、昨年同様、性娯楽サービス利用経験のある 40-50 代の会社員（企業被雇用者）をよく代表するサンプルが得られた。

3) 調査内容

調査内容は以下のとおりである。質問紙は 15 ページ全 192 項目となり、プリテストでは、記入に要する時間はおよそ 30 分であった。

- ・基本属性（5 項目）
- ・性娯楽産業の最近 1 年間利用業態・利用頻度
- ・直近の性風俗利用で受けとった性娯楽サービスの内容
- ・直近の性風俗利用でのコンドーム使用（陰・口腔性交での使用状況、コンドーム使用のタイミング、使用目的等）
- ・性風俗以外での性行動・コンドーム使用状況
- ・コンドームを利用しなかった理由（27 項目）
- ・性風俗サービスでのコンドーム使用についての意見（18

項目)

- ・日ごろの(性風俗に特化しない)コンドーム使用についての態度(13項目)
- ・日ごろより関心のある健康情報(12項目)
- ・繁華街での健康情報サービスについて
- ・エイズ・性感染症についての罹患可能性の自己評価
- ・日ごろ実践している保健行動
- ・HIV抗体検査受検行動
- ・次年度(平成20年度)調査研究への参加協力の可否

(倫理面への配慮)

当研究課題は、大阪府立大学人間社会学部(主任研究者所属)の研究倫理委員会の審査を受け、承認された。

また、当研究課題では、研究倫理面について以下のような配慮をした。

- ・調査協力の呼びかけ文で、研究の目的、データの保管や利用について研究班の方針を明確に記述した。
- ・調査への参加は、研究目的・研究班の方針についての理解・了解した者の、自発的な意思に基づいてなされる形式とした。
- ・質問はすべて多肢選択式とした。回答および調査結果は、数値化して統計的に扱った。
- ・回答ハガキおよびインセンティブ送付用封筒には、研究班の正式名称、「エイズ」「性風俗」などのことばを印刷せず、第三者に内容が推定できないようにした。
- ・調査インセンティブおよび第二調査質問紙送付のための個人情報、質問紙データ本体と照合できない形で入力処理した。
- ・質問紙本体(回答ハガキ)およびデータは厳重に保管し、直接研究に携わる者および東班が特別に定めた者以外が取り扱えないよう、厳しい制限を設けた。
- ・研究補助を行う者について、研究班の研究倫理の方針を指導し、班員と同等に遵守させた。

3. 研究結果

1) 回答者属性(表1-表6)

回答者の年齢は、25歳以上75歳までの間で、50パーセントは「46-50歳」となった。51-60歳で33.0%、ついで41-50歳32.3%、31-40歳15.6%であった。職業では会社員・公務員などの被雇用者が計57.9%、学歴では大卒43.1%、高卒35.2%などであった。一ヶ月に自由に使えるお金は、3-5万円が34.6%でもっとも多く、つぎに、5-10万円が30.8%であった。53.9%が有配偶であった。

2) 過去1年間の性行動・風俗利用(表10-表14)

過去1年間に女性とセックスをしたことがあると回答した人は回答者全体の83.2%(653人)であり、1年間のパートナー数は配偶者を含め3.99±3.14人であった。セックスの頻度は「月に2-3回」27.9%、「月に1回程度」21.0%、「週に1回程度」13.5%であった。

過去1年間にセックスをしたことのある人のうち、性風俗を利用したことのある人は59.7%(390人)で、平均5.14±10.27回利用していた。うち、「性風俗を利用するときはいつも一人だった」と答えた人は、36.6%であった。

3) 性風俗の「アクティブ・ユーザー」(表16-表19)

「過去1年間に性風俗を利用したことのある人」390名を「アクティブ・ユーザー」と捉え、直近の性風俗利用について、集計した。

過去1年間に性風俗でフェラチオ(オーラル・セックス)のサービスを受けた人は93.8%、本番(膣挿入)のサービスを受けた人は83.6%であった。

69.2%が過去3ヶ月以内に性風俗を利用していた。

4) 直近の性風俗利用(表19・表20)

「アクティブ・ユーザー」を対象に、直近の性風俗利用について集計した。

利用した業態では、ソープランド(30.3%)、店舗型ファッションヘルス(21.8%)、派遣型ファッションヘルス・デリヘル(16.7%)、ピンクサロン(4.9%)、派遣型デートクラブ・ホテル(3.8%)の順で多かった。

以上の4業態での本番サービスの有無は、順に94.9%、37.6%、70.8%、21.1%であった。同様に、フェラチオでは83.9%、85.9%、86.2%、73.7%であった。

5) 直近の性風俗でのコンドーム使用(表21)

直近の性風俗でコンドームを使用したと答えた人は、ソープランド80.5%、店舗型ファッションヘルス44.7%、派遣型ファッションヘルス・デリヘル61.5%、ピンクサロン26.3%、派遣型デートクラブ・ホテル60.0%であった。うち、「毎回挿入前に装着した」と答えた人は、順に、64.4%、32.9%、40.0%、21.1%、33.3%であった。

フェラチオでのコンドーム使用はこの4業態で13.8-25.0%であった。膣挿入では21.1-79.7%であった。

コンドームを用意したのは、業態全体で「お店・ホテル」37.2%、「接客女性」33.6%であった。

6) コンドームを使用しなかった理由(表22)

昨年度の調査、ヒアリング、文献検討の結果から、性風俗利用時にコンドームを使用しなかった理由についてたずねる質問項目を独自に27項目起こした。

「まったくあてはまらない」から「大いにあてはまる」までの5段階で回答してもらい、その肯定率（「あてはまる」「大いにあてはまる」と答えた人の割合）をアクティブ・ユーザーのみについて集計したところ、上位項目は表22のとおりとなった。

「セックスはできるだけ自然な形でしたい」「快感が損なわれるから」がおのおの52.8%、51.3%、「妊娠の心配をしなかったから」50.3%、「ふだん使用しないから」46.7%、「コンドームを使うかわらないかは相手との関係によって決めているから」45.5%、「自分は大丈夫と安心していただけから」39.3%などが上位10項目となった。

7) 性風俗利用と性の健康についての態度

昨年度までの調査結果から、性風俗利用と性の健康についてたずねる質問項目を独自に18項目起こし、「まったくあてはまらない」から「大いにあてはまる」までの5段階で回答してもらった。

各項目の肯定率（「あてはまる」「大いにあてはまる」と答えた人の割合）上位項目は表23のとおりとなった。

また、一般的なコンドーム使用についての態度は表24のとおりとなった。

8) 関心のある健康情報・健康サービス（表25・表26）

利用したいサービスでは、いずれの項目においても、3割前後の人が関心を示していた。

4. 考察

昨年からの調査の次段階として、顧客層の中でもさらにヘビーユーザー／ハイリスクユーザーの動向についての情報収集が必要であるとされた。今年度の詳細な質問紙調査により、「アクティブ・ユーザー」（過去1年以内に性風俗を利用したことのある人）の情報が得られ、必要とされる情報の基礎部分が補充された。

また、次年度に予定している電話・面接調査への協力を許諾する回答が589名から得られた。

40-60歳までの年齢層をよく代表するサンプルとなったため、昨年度からの検討課題である、より若い世代（20-30代）の動向把握という課題は、次年度にもひきつづき検討することになった。

1) 昨年度調査からの検討課題

昨年度調査より、①サブポピュレーションごとの健康教育ニーズ、②健康教育レディネスの評価、③派遣型ユーザーの実態把握、④ヘビーユーザー／ハイリスクユーザーの同定、以上4点が課題として示された。

これらにつき、本調査の結果は次のように応答した。

① サブポピュレーションごとの健康教育ニーズ

- ・提供されているサービス内容およびコンドーム使用の状況から、非本番系とされている業態でもコンドーム使用推進の対象に入る
- ・業態に関係なくフェラチオ（オーラル・セックス）の際の健康リスクにとりくむ必要がある

② 健康教育レディネスの評価

性風俗利用と性の健康についての態度の結果から、風俗ユーザーのマジョリティはコンドーム使用の「ルール化」「規範化」戦略に反応しやすいかのではないかと示された。

つまり、利用者層の対策は、もっと積極的に取り組む価値がある。

③ 派遣型ユーザーの実態把握

派遣型ヘルスは、本番系業態として位置づける。派遣型では「たてまえと実際が乖離しやすい」という認識が必要であり、調査・介入いずれにおいても、実施者は頻回の評価点検が必要である。

上述の①とあわせ、派遣型・非本番系・オーラルセックスのいずれかが関与する場合には、特別な配慮を要する。

④ ヘビーユーザー／ハイリスクユーザーの同定

- ・コンドームを使用しないセックスを自覚的に求める「顕在的」ナマ派は確かに存在しており、その傾向と対策が必要である。
- ・一方、「ポテンシャル」ナマ派（必要であればコンドームを使用するが、もし安全ならば・機会があればコンドームを使わずにセックスしたいと考えている人）を「顕在的」ナマ派に転化させないという介入の戦略点が存在するであろう。
- ・オーラルセックスでのコンドーム未使用とナマ志向との関係などは、以上2点を攻略する上でのヒントとなりうるのではないかと。

以下、以上4点の根拠となる結果について取り扱う。

2) コンドーム使用促進について

コンドームを使用しなかった理由（表22）、コンドームについての一般的な態度（表24）の結果より、以下のようことがらを予防啓発活動に提案するエビデンスが得られた。

- ・「本当のセックス」「自然なセックス」という価値に健康メッセージで対抗する戦略
- ・保健行動優先性の問題（例、一回くらいなら大丈夫と思う）と楽観主義（例、自分は大丈夫とつい油断する）の

問題への対応

- ・接客女性からコンドーム使用を提案すること。これを支援するために、対策をとり入れる。
- ・本調査のサンプルは中年層を代表するものである。より若い層の実態把握を進めた上で、若者を対象とした健康教育に上の要因についての対策を先取りして取り込む。

3) 風俗利用者の「ナマ志向」(コンドームを使用しないセックスを選好すること) について

結果より、「ナマのサービスがあるかどうかを確認する」など積極的に「ナマ志向」を表明していたのは全体の4分の1以下であるが、「女性がナマでもいいよといったら使用しない」などポテンシャルな「ナマ志向」を自覚している人となると、半数近くとなる傾向がうかがえた。「ポテンシャル」ナマ派を「顕在的」ナマ派に転化させないという介入点があるのではないかと推察される。

4) コンドーム使用をめぐる状況的要因について

8・9割の回答者が、接客女性や店の方針としてコンドーム使用が求められるならそれに応じるという態度を肯定していた。しかし、顧客の側も含めてコンドーム使用を積極的に推進する意見項目に賛成する割合はそれより若干低下する傾向にあった。このことより、一般的な風俗ユーザーは、「コンドーム使用のルール化」「規範化」の戦略に反応しやすいのではないかと推察される。

次年度策定予定の風俗利用者向け IEC ガイドラインでは、コンドーム使用の「ルール化」「規範化」をコアのひとつにすることが考えられる。

5. 自己評価

1) 達成度について

昨年度調査の内容をより詳細にした質問紙調査により、昨年度調査で見出された新たな探索課題を含め、性風俗利用者の態度・行動特性がますます明確になった。

- ①「アクティブ・ユーザー」の動向およびニーズ把握の端緒が得られた。本研究班全体の目的である「しかけ」策定に直接結びつく重要な情報である。
- ②若年者サンプルが不足気味である点など、調査研究上の問題点も明瞭になり、今後の課題が明確化した。
- ③来年度調査の協力者名簿が整備された。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

調査の規模、経年観察が可能な調査デザイン、情報量などの点から、先行研究と見比べてもじゅうぶんな学術水準

に到達していると思われる。

3) 今後の展望について

最終年度は、今年度までに把握し切れなかった若年層の動向、とくに派遣型サービスユーザーの実態把握を進める。

また、これまでの調査から得られた情報をもとに、予防啓発活動のガイドライン策定を行い、その具体的成果物として、保健従事者・政策立案者向け IEC ガイドライン、性娯楽産業経営者・業務従事者向け読本を作成する。本研究班の他の研究課題と連動し、「しかけ」(具体的な予防啓発プログラム) に対し、成果物にもとづく提案を行う。

6. 結論

日本における成人異性愛男性の性娯楽産業利用状況および HIV/STDs 予防にかんする意識・行動を調査し、HIV/STDs にたいする感染脆弱性および予防対策ニーズを検討することを目的として、郵送法による自記式質問紙調査を実施した。対象は、性娯楽産業の利用経験のある男性とした。初年度調査参加者名簿登録者 1,400 名に質問紙を送付し有効票 785 票を回収した。

その結果、以下のような調査結果が得られた。「非本番系」とされている店舗型ヘルスで3割、非店舗型ヘルスで7割の本番サービス利用率であった。オーラルセックスでのコンドーム使用は業態全体をとおし 15%前後で全体的に低調であった。

態度項目では、積極的に「ナマ志向」を表明していたのは全体の4分の1以下であるが、ポテンシャルな「ナマ志向」では、半数近くであった。8・9割の回答者が、接客女性や店の方針としてコンドーム使用が求められるならそれに応じるという態度に賛意を持っていた。

健康パンフレットの作成、講習会の開催、夜間アウトリーチ相談、夜間クリニック、自己検査キットなどを使いたいと答えた人は3割程度であった。

以上より、

- ①派遣型、非本番、オーラル・セックス=この3つにかかわる介入・対策は、特別な注意が必要であること
 - ②「ポテンシャル」ナマ派を「顕在的」ナマ派に転化させないという介入の可能性
 - ③一般的な風俗ユーザーは、コンドーム使用の「ルール化」「規範化」戦略の可能性
- の3点が示唆された。

7. 知的所有権の出願・取得状況(予定を含む)

特記事項なし

基本集計 1 回答者の基本属性

表1

問1 このアンケートの回答者は、①男性で、②女性が接客する性風俗サービスを利用したこと
がある人を対象としています。あなたはこの条件①と②の両方に当てはまりますか？
(○は一つ)

	度数	パーセント	累積パーセント
はい	785	100.0	100.0
いいえ	0	0.0	
合計	785	100.0	

表2

問35 あなたの年齢は？ あてはまる番号に○をつけてください。(○は一つ)

	度数	パーセント	累積パーセント
23～25 歳	2	0.3	0.3
26～30 歳	13	1.7	1.9
31～35 歳	38	4.8	6.8
36～40 歳	85	10.8	17.6
41～45 歳	107	13.6	31.2
46～50 歳	147	18.7	49.9
51～55 歳	126	16.1	66.0
56～60 歳	133	16.9	82.9
61～65 歳	65	8.3	91.2
66～70 歳	30	3.8	95.0
71～75 歳	22	2.8	97.8
76 歳以上	15	1.9	99.7
無回答	2	0.3	100.0
合計	785	100.0	

表3

問36 あなたの職業は？ あてはまる番号に○をつけてください。(○は一つ)

	度数	パーセント
学生	1	0.1
会社員(事務系)	85	10.8
会社員(技術系)	73	9.3
会社員(現場従事)	141	18.0
会社管理職(事務)	96	12.2
公務員	60	7.6
自営業	177	22.5
自由業	40	5.1
無職	81	10.3
その他	28	3.6
無回答	3	0.4
合計	785	100.0

表4

問37 あなたの最終学歴はなんですか？ あてはまる番号に○をつけてください。(○は一つ)

	度数	パーセント
小学校	1	0.1
中学校	31	3.9
高校	276	35.2
専門学校	89	11.3
短大	25	3.2
大学	338	43.1
大学院	20	2.5
その他	2	0.3
無回答	3	0.4
合計	785	100.0

表5

問 38 あなたが1ヶ月に自由に使えるお金(お小遣い)はいくらぐらいですか? あてはまる番号に○をつけてください。(○は一つ)

	度数	パーセント
1万円未満	20	2.5
1万~3万円未満	124	15.8
3万~5万円未満	272	34.6
5万~10万円未満	242	30.8
10万~20万円未満	91	11.6
20万円以上	34	4.3
無回答	2	0.3
合計	785	100.0

表6

問 39 あなたの現在の婚姻関係や特定のパートナーの有無をうかがいます。ここでいう特定のパートナーとは、恋人、愛人、婚約者、事実婚の妻、内縁の妻などを指します。あてはまる番号に○をつけてください。(○は一つ)

	度数	パーセント
①結婚している(妻がいる)	423	53.9
②結婚しているが、妻のほかに特定のパートナーがいる	101	12.9
③結婚していないが、特定のパートナーがいる	97	12.4
④現在、特定のパートナーはいない	151	19.2
無回答	13	1.7
合計	785	100.0

表7

問4

今後10年以内に、あなた自身が次の病気にかかる可能性はどれくらいあると思いますか? 「まったくない」から「大いにある」までの5段階でお答えください。(○はそれぞれ一つずつ)

	配点	まったく ない	おそらく ない	あるか もしれな い	おそらく ある	大いに ある	無回答	おそらくある・ 大いにある	平均点	SD
		1	2	3	4	5				
風邪やインフルエンザ	度数	16	42	213	237	272	5	64.8%	3.91	1.01
	パーセント	2	5.4	27.1	30.2	34.6	0.6			
ガン・脳卒中・心筋梗塞	度数	38	91	474	120	54	8	22.2%	3.08	0.86
	パーセント	4.8	11.6	60.4	15.3	6.9	1			
エイズ(HIV/AIDS)	度数	199	409	155	6	4	12	1.3%	1.97	0.73
	パーセント	25.4	52.1	19.7	0.8	0.5	1.5			
梅毒	度数	246	402	120	4	2	11	0.8%	1.86	0.70
	パーセント	31.3	51.2	15.3	0.5	0.3	1.4			
淋病	度数	231	392	139	8	4	11	1.5%	1.92	0.75
	パーセント	29.4	49.9	17.7	1	0.5	1.4			
クラミジア	度数	221	365	172	7	4	16	1.4%	1.97	0.77
	パーセント	28.2	46.5	21.9	0.9	0.5	2			
クワイフェルト・ヤコブ病(BSE E感染症、狂牛病)	度数	247	394	124	4	2	14	0.8%	1.86	0.71
	パーセント	31.5	50.2	15.8	0.5	0.3	1.8			

表8

問5 過去1年間に、エイズ検査を受けましたか？(○は一つ)

	度数	パーセント
はい	88	11.2
いいえ	692	88.2
無回答	5	0.8
合計	785	100
付問 1-1 何回受けましたか？		
回数	度数	パーセント
1	54	61.4
2	15	17.0
3	7	8.0
4	1	1.1
5	2	2.3
10	1	1.1
12	1	1.1
13	1	1.1
無回答	6	6.8
合計	88	100.0

表9

付問 1-2 どういった状況で検査を受けましたか？あてはまる番号にすべて○をつけてください。(○はいくつでも)

	度数	パーセント
健康診断、人間ドックの一環として受けた	46	52.3
保健所で(エイズ検査=HIV抗体検査)を受けた	18	20.5
他の病気・ケガの手術や治療の際に一緒に受けた	22	25.0
イベント会場で受けた	2	2.3
検査キットを使って自己検査を行った	1	1.1
その他	9	10.2

表 10

問6 この1年間に、女性とセックスをしましたか？(○は一つ)

	度数	パーセント
はい	653	83.2
いいえ	132	16.8
合計	785	100

表 11

問7 この1年間に、全部で何人の女性とセックスしましたか？(配偶者を含む)

回数	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント	平均回数
1	234	29.8	36.1	36.1	3.99±3.14 (min. 1 - max.120)
2	124	15.8	19.1	55.2	
3	101	12.9	15.6	70.8	
4	38	4.8	5.9	76.7	
5	51	6.5	7.9	84.6	
6	23	2.9	3.5	88.1	
7	12	1.5	1.9	90.0	
8	6	0.8	0.9	90.9	
9	2	0.3	0.3	91.2	
10人以上	57	3.1	8.8	100.0	
無回答	5	0.77			
合計	653	100.0			

表 12
問8

この1年間に、女性としたセックスの頻度はどのくらいでしたか？(○は一つ)

回数	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
年1~2回以下	48	7.4	7.4	7.4
年3~5回	89	13.6	13.6	21.0
2か月に1回程度	57	8.7	8.7	29.8
月に1回程度	137	21.0	21.0	50.8
月2~3回	182	27.9	27.9	78.7
週に1回程度	88	13.5	13.5	92.2
週2~3回	49	7.5	7.5	99.7
週4回	1	0.2	0.2	99.8
週5回以上	1	0.2	0.2	100.0
無回答	1	0.2	0.2	
合計	653	100.0	100.0	

表 13
問9

この1年間に、性風俗を利用しましたか？ 女性が接客した場合についてのみお答えください。(○は一つ)

回数	度数	パーセント
はい	390	59.7
(付問1-1)性風俗を利用するとき はいつも一人だった		36.6
いいえ	258	39.5
無回答	5	0.8
合計	653	100.0

*問6で「はい」(=この1年間にセックスをしたことがある)と答えた人のみ集計

表 14
問10

この1年間に、性風俗を利用した回数は何回ぐらいでしたか？

回数	度数	パーセント	累積パーセント
0	262	40.1	40.4
1	36	5.5	46.0
2	63	9.6	55.7
3	61	9.3	65.1
4	32	4.9	70.1
5	40	6.1	76.2
6	26	4.0	80.2
7	3	0.5	80.7
8	6	0.9	81.6
9	2	0.3	81.9
10~	117	17.9	100.0
無回答	5	0.8	
合計	653	100.0	

*問6で「はい」(=この1年間にセックスをしたことがある)と答えた人のみ集計

平均
5.14±10.27
min. 0
max. 120
中央値
2

表 15

問3 あなたはふだん、次のようなことをしていますか？ あてはまる番号にすべて○をつけてください。(○はいくつでも)

	度数	パーセント
1	421	53.6
2	239	30.4
3	252	32.1
4	275	35.0
5	152	19.4
6	289	36.8
7	127	16.2
8	570	72.6
9	347	44.2
10	276	35.2
11	221	28.2
12	165	21.0
13	282	35.9
14	33	4.2
15	12	1.5
16	104	13.2

(n=785)

表 16

問 10

この1年間に、性風俗を利用した回数は何回ぐらいでしたか？

回数	度数	パーセント	累積パーセント	平均
1	36	9.2	9.4	
2	63	16.2	25.7	
3	61	15.6	41.6	
4	32	8.2	49.9	
5	40	10.3	60.3	
6～9	37	9.5	69.9	8.59±12.14
10～14	48	12.4	82.3	(,min. 1 -
15～19	18	4.7	87.0	max. 120)
20～24	27	7	94.0	
25～29	4	1.1	95.1	
30～39	6	1.5	96.6	
40～49	4	1	97.7	
50～	9	2.6	100.0	
無回答	5	1.3		
合計	390	100		

表 17

問 14・問 15 この1年間に、性風俗で次のサービスを受けましたか？

	☆問 14 フェラチオ(オーラル・セックス)		☆問 15 膣挿入(セックス, 本番)	
	度数	パーセント	度数	パーセント
はい	366	93.8	326	83.6
(コンドーム)				
一度も使用しなかった	200	51.3	45	11.5
使用しない方が多かった	80	20.5	19	4.9
約半々だった	33	8.5	27	6.9
使用する方が多かった	16	4.1	45	11.5
毎回使用した	37	9.5	187	47.9
いいえ	22	5.6	61	15.6
無回答	2	0.5	3	0.8
合計	390	100	390	100

表 18
 ☆問 16

この1年間に、膣挿入(セックス、本番)ができる性風俗にあなたが支払った1回の金額(およその平均)は、次のうちどれですか？ あてはまる番号に○をつけてください。

	度数	パーセント
この1年間に本番のあるサービスは利用していない	50	12.8
5000円未満	2	0.5
5000円～1万円未満	19	4.9
1万円～2万円未満	129	33.1
2万円～3万円未満	119	30.5
3万円～4万円未満	47	12.1
4万円～5万円未満	9	2.3
5万円～10万円未満	10	2.6
10万円以上	4	1
無回答	1	0.3
合計	390	100

表 19
 ☆問 20

いちばん最近、性風俗を利用したのはいつのことでしたか？ 女性が接客した場合についてのみお答えください。(○は一つ)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
1週間以内	42	10.8	10.8	10.8
1か月以内	129	33.1	33.1	43.8
3か月以内	99	25.4	25.4	69.2
6か月(半年)以内	73	18.7	18.7	87.9
1年以内	43	11.0	11.0	99.0
1年以上前	4	1.0	1.0	100.0
合計	390	100.0	100.0	

あなたが、いちばん最近利用した性風俗の種類は何でしたか？あてはまる番号に○をつけ
てください。(○は一つ)

直近の性風俗利用で受けたサービス(%)													
度数	パーセント	デー ブ・キス	手こき	玉なめ	アナル なめ	兼股	指入れ	前立腺 ／アナルマ ッサージ	クニニ	フェラ チオ	口内射 精	アナル セックス	本番
85	21.8	68.2	68.2	57.6	32.9	34.1	45.9	10.6	49.4	85.9	45.9	7.1	37.6
65	16.7	69.2	56.9	49.2	13.8	26.2	52.3	4.6	58.5	86.2	32.3	4.6	70.8
12	3.1	25.0	58.3	25.0	8.3	16.7	33.3	16.7	33.3	58.3		8.3	50.0
19	4.9	78.9	42.1	42.1	10.5	5.3	42.1		15.8	73.7	47.4		21.1
4	1.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0			50.0	50.0		
118	30.3	56.8	51.7	56.8	30.5	8.5	44.1	10.2	53.4	83.9	11.9	0.8	94.9
1	0.3		100.0							100.0	100.0		
15	3.8	66.7	53.3	46.7	20.0	13.3	66.7	6.7	46.7	86.7	6.7		93.3
14	3.6	50.0	35.7	35.7	21.4	14.3	28.6	14.3	28.6	85.7	21.4	14.3	92.9
3	0.8	66.7	33.3	33.3						33.3	33.3		100.0
9	2.3	66.7	22.2				11.1		22.2	77.8			77.8
1	0.3		100.0						100.0	100.0			100.0
3	0.8		33.3				33.3			33.3			33.3
12	3.1	75.0	41.7	50.0	25.0	8.3	58.3	8.3	83.3	83.3	16.7	16.7	91.7
1	0.3	100.0		100.0					100.0	100.0			100.0
3	0.8	66.7	100.0	66.7	33.3		66.7	33.3	100.0	66.7	66.7	33.3	100.0
4	1.0	50.0	75.0	25.0	25.0	25.0	75.0		50.0	50.0			100.0
21	5.4	71.4	66.7	71.4	47.6	23.8	66.7	14.3	66.7	81.0	52.4	9.5	71.4
390	100.0	62.3	55.6	50.8	25.1	18.2	46.4	8.7	49.7	81.8	27.2	4.6	70.0

表 21

店舗名	コンドームを使用した		そのコンドームは誰が用意したか(%)				どのサービスでコンドームを使用したか(%)				毎回挿入前に装着した(%)
	度数	パーセント	持参した	お店、ホテル	女性	その他	フェラオ	膣挿入	肛門性交	その他	
店舗型ファッションヘルス	38	44.7	7.1	28.2	22.4	1.2	20.0	27.1	4.7	3.5	32.9
派遣型ファッションヘルス (デリバリーヘルス)	40	61.5	12.3	40.0	29.2		13.8	55.4	6.2		40.0
風俗系エステ	9	75.0		25.0	58.3		25.0	58.3	8.3		33.3
ピンクサロン	5	26.3	5.3	10.5	10.5		10.5	21.1	5.3		21.1
ヌキキャバ	1	25.0		25.0			25.0				
ソープランド(個室付浴場)	95	80.5	7.6	44.9	44.1		11.9	79.7	0.8		64.4
ビデオBOX、ビデオ個室鑑賞											
派遣型子脱クラブ、愛人クラブ、ホテルなど	9	60.0	6.7	20.0	40.0		6.7	53.3			33.3
バー・スナック・クラブなどの女性の連れ出し	13	92.9	35.7	50.0	57.1		50.0	78.6	14.3	7.1	35.7
温泉コンパニオンなどのシヨート・ロング	2	66.7		66.7				33.3			33.3
接待型料理店(旧遊郭、ちよんのま)	7	77.8		33.3	66.7		22.2	66.7			77.8
街娯(立ちんぼ)	1	100.0		100.0	100.0		100.0	100.0			100.0
ストリップ劇場	3	100.0		66.7	33.3		33.3	33.3			33.3
出会い系サイト、テレクラなど	9	75.0	25.0	66.7	8.3		8.3	75.0	8.3		58.3
SMクラブ・SMバブ											
有料の乱交パーティー、スワッピングパーティー	3	100.0	33.3	66.7			33.3	100.0	33.3		66.7
その他	3	75.0	75.0		25.0			75.0			50.0
無回答	12	57.1	9.5	38.1	38.1		23.8	47.6	9.5		33.3
合計	250	64.1	10.0	37.2	33.6	0.3	16.7	55.6	4.4	1.5	45.1

表 22

問 12 この1年間に性風俗を利用した際、コンドームを使用しなかったことがあるというのは、どういう理由によるものですか？
以下の理由について、「まったくあてはまらない」から「大いにあてはまる」までの5段階でお答えください。

質問番号	平均値	SD	(n=199)		
			あてはまる・大いにあてはまる (%)	(順位)	
問 12_21	セックスはできるだけ自然な姿でしたい	3.2	1.5	52.8	1
問 12_7	快感がそこなわれるから	3.2	1.4	51.1	2
問 12_9	妊娠の心配をしなかったから	3.2	1.4	50.3	3
問 12_1	ふだん使用しないから	3.1	1.4	46.7	4
問 12_26	コンドームを使うか使わないかは、相手との関係によって決めているから	3.0	1.4	45.5	5
問 12_13	性病、エイズの心配がなかったから	3.1	1.2	40.7	6
問 12_11	相手がビールを飲んでいたら	2.7	1.5	39.4	7
問 12_12	「自分は大丈夫」と安心していただけから	3.0	1.3	39.3	8
問 12_8	セックスの雰囲気や壊れるから	3.0	1.3	38.9	9
問 12_19	膣や肛門への挿入をしなかったから	2.4	1.6	30.2	10
問 12_10	他の避妊(妊娠予防)をしていたから	2.6	1.4	29.7	11
問 12_2	そのとき、たまたまその場になかったから	2.4	1.3	26.7	12
問 12_22	コンドームをつけると、膣内での滑りが悪くなるから	2.5	1.3	26.6	13
問 12_15	勃起しにくく、あるいは勃起を維持しにくくなるから	2.3	1.3	23.2	14
問 12_5	つけるのが面倒くさいから	2.2	1.2	19.3	15
問 12_24	コンドームを買い置きしたり、持ち歩いたりできない状況だから	2.2	1.3	19.2	16
問 12_20	自分からコンドームをつけるのは、間が悪い	2.2	1.2	17.5	17
問 12_18	コンドームの装着感に慣れないから	2.1	1.2	16.4	18
問 12_14	射精を伴わないセックスだったから	1.9	1.2	14.2	19
問 12_6	相手が嫌がったから	2.1	1.1	12.9	20
問 12_23	コンドームの素材でかゆみ、ヒリヒリ感などの症状がでるから	1.9	1.0	9.0	21
問 12_4	買うのが面倒くさいから	1.9	1.1	8.5	22
問 12_17	自分のペニスのサイズに合うコンドームがなかなかない(あるいはまったくない)	1.6	0.9	5.1	23
問 12_16	コンドームをうまく装着できないから	1.7	0.8	2.8	24
問 12_25	コンドームを使って失敗したことがあり、以来、信用していないから	1.7	0.9	2.8	25
問 12_27	売っている場所を知らないから	1.4	0.7	1.7	26
問 12_3	値段が高いから	1.6	0.8	1.1	27